協議資料３－１

地域間幹線系統確保維持計画（案）について

１　地域間幹線系統確保維持

路線名	運行事業者	運行区間	運行距離(Km)	運行日	日運行回数	輸送人員（人）		
						R4	R5	R6
菅平高原線	上田バス㈱	上田駅～裏太郎	30.9	毎日運行	29	102,194	116,538	122,528
真田線		上田駅～真田	11.9	平日・土曜のみ運行	9	28,781	38,860	39,417
真田自治センター入口線		上田駅～真田自治センター入口	10.5	平日・土曜のみ運行	34	36,244	44,794	46,058
鹿教湯線	千曲バス㈱	下秋和～鹿教湯車庫 下秋和～丸子	33.5 17.8	毎日運行	13 20	316,996	324,569	296,340
青木線		下秋和～青木	16.4	毎日運行	21	153,893	143,388	119,569

２　地域間幹線系統車両取得計画

路線名	運行事業者	運行区間	運行距離(Km)	運行日	日運行回数	輸送人員（人）		
						R4	R5	R6
真田自治センター入口線	上田バス㈱	上田駅～真田自治センター入口	10.5	平日・土曜のみ運行	30	36,244	44,794	46,058
青木線	千曲バス㈱	下秋和～青木	16.4	毎日運行	21	153,893	143,388	119,569

協議資料３－２

地域間幹線系統別確保維持計画

令和７年５月３０日

（住所）上田市蒼久保 1101-2
（名称）上田バス株式会社
（代表者名）舟見　哲也

１．幹線系統名、区間及び計画期間

系　統　名　：　　真田自治センター入口　　線
運行区間　：　　上田駅　　～真田自治センター入口
計画期間　：令和７年１０月１日～令和１０年９月３０日

２．幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いている真田自治センター入口線（上田駅～真田自治センター入口）は、真田自治センター、傍陽地域、上田駅、高等学校への通学・通勤の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に必要不可欠な交通として機能している。

人口減少と自家用車の普及により、真田自治センター入口線の公共交通機関利用者は減少を続けておりましたが、平成 25 年 10 月からの運賃低減施策により、当該路線はバス利用者が着実に増えていることから、地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

このため、地域公共交通確保維持事業により、真田自治センター入口線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトによる QR 決済実証実験では、定期券アプリが開発され、お客様（特に高校生）の需要が顕著に伸びている傾向にあり、利便性等も上がっております。

年１回行っている実態調査により、各路線における収益の按分比率を決定し、各路線の収益を算出しておりますが、この実証実験により各路線データーが集積されつつあり、実質的な収益も明確となった事は、今後の各路線のマーケティング構想の大きな足掛かりとなると捉えております。時間帯別、曜日別、利用者情報等、細分のデーターが得られることは路線の確保・維持に大きな力となります。一層のキャッシュレス化の推進を図る。

３．幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

（１）運行の目標

・他の幹線系統（菅平高原線、傍陽線）と組み合わせることで、平日の日中、上田駅から真田地域自治センター間において、30 分間隔のパターンダイヤ化を図り、サービス水準の向上による利用者の確保を目指す。
・上記の取組みにより輸送量 15.00 以上を確保する。

（２）運行による効果

・真田自治センター入口線を維持することにより、住民の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また運転手確保に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

４．３の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【実施主体】
・上田バス株式会社、上田市、上田市公共交通活性化協議会、真田地域公共交通利用促進協議会
【事業】
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・夏休みキッズパスの実施
・「まちのバス大集合」（バスイベント）への参加
・地域住民向けにバスの乗車体験イベント実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修

５．費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R07.10～R08.9					
R08.10～R09.9					
R09.10～R10.9					

5.費用負担額について
　算定根拠となる、国からの地域別標準単価が示されておらず、負担額を算出できなかったため、空欄となっております。本申請の際には、確定数値を入力したものを提出することといたします。

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

６．収益改善のために行った取組状況

・「まちのバス大集合」や「バスの乗り方教室」、「夏休みキッズパス」を始めとする利用促進事業の実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修

７．生産性を向上する取組

（１）取組内容

・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・夏休みキッズパスの実施
・季節限定のデコレーションバスの実施
・首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布
・定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施
・自社でのバス乗り方教室イベントの実施による利用啓発
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加

（２）実施主体
・上田バス株式会社 ・上田市 ・上田市公共交通活性化協議会 ・真田地域公共交通利用促進協議会
（３）定量的な効果目標
・上記取組を実施することにより、輸送量 15.00 以上の確保を目標とする。
（４）実施に向けたスケジュール
令和 7 年 10 月　　パターンダイヤ及びゾーン制運賃の導入 　　定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施 令和 7 年 12 月　　首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布 令和 7 年 12 月　　自社でのバス乗り方教室イベントの実施による利用啓発 令和 8 年 3 月～4 月　定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施 令和 8 年 4 月　　バスイベント「まちのバス大集合」開催 令和 8 年 7 月　　季節限定のデコレーションバスの実施 令和 8 年 7 月～8 月　キッズパスの実施 通年にて時刻表の無料配布、運賃低減バス施策、保育園児向けバスの乗り方教室、バスの運転体験ができる会社説明会（年 3 回）を実施する。
（５）実施時期
上記日程にて実施
（６）その他特記事項

８．広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表５に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】
（住　所）上田市蒼久保 1101-2
（所　属）上田バス株式会社
（氏　名）新井　信輝
（電　話）0268-34-6602
（ＦＡＸ）0268-34-6601
（e-mail）n.arai@uedabus.co.jp

（様式１）

地域間幹線系統別確保維持計画

令和７年５月３０日

（住所）上田市蒼久保 1101-2
（名称）上田バス株式会社
（代表者名）舟見　哲也

１．幹線系統名、区間及び計画期間
系 統 名　：　真田　線 運行区間　：　上田駅　～真田 計画期間　：令和７年１０月１日～令和１０年９月３０日

２．幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）
上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いている真田線（上田駅～真田）は、真田地域、真田自治センター、上田駅、高等学校への通学・通勤の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に必要不可欠な交通として機能している。 人口減少と自家用車の普及により、真田線の利用者は減少を続けていたが、平成 25 年 10 月からの運賃低減施策により、当該路線のバス利用者が着実に増えていることから、地域住民の通院・通学・買い物を中心とした、生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。 このため、地域公共交通確保維持事業により、真田線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。 上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトによる QR 決済実証実験では、定期券アプリが開発され、お客様（特に高校生）の需要が顕著に伸びている傾向にあり、利便性等も上がっております。 年１回行っている実態調査により、各路線における収益の按分比率を決定し、各路線の収益を算出しておりますが、この実証実験により各路線データーが集積されつつあり、実質的な収益も明確となった事は、今後の各路線のマーケティング構想の大きな足掛かりとなると捉えております。時間帯別、曜日別、利用者情報等、細分のデーターが得られることは路線の確保・維持に大きな力となります。一層のキャッシュレス化の推進を図る。

３．幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果
（１）運行の目標
・他の幹線系統（菅平高原線、傍陽線）と組み合わせることで、平日の日中、上田駅から真田地域自治センター間において、30 分間隔のパターンダイヤ化を図り、サービス水準の向上による利用者の確保を目指す。 ・上記の取組みにより輸送量 15.00 以上を確保する。
（２）運行による効果
・真田線を維持することにより、住民の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

４．３の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【実施主体】
・上田バス株式会社、上田市、上田市公共交通活性化協議会、真田地域公共交通利用促進協議会
【事業】
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・夏休みキッズパスの実施
・「まちのバス大集合」（バスイベント）への参加
・地域住民向けにバスの乗車体験イベント実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修

５．費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R07.10～R08.9					
R08.10～R09.9					
R9.10～R10.9					

5.費用負担額について
　算定根拠となる、国からの地域別標準単価が示されておらず、負担額を算出できなかったため、空欄となっております。本申請の際には、確定数値を入力したものを提出することといたします。

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

６．収益改善のために行った取組状況

・「まちのバス大集合」や「バスの乗り方教室」、「夏休みキッズパス」を始めとする利用促進事業の実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修

７．生産性を向上する取組

（１）取組内容

・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・夏休みキッズパスの実施
・季節限定のデコレーションバスの実施
・首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布
・定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施
・自社でのバス乗り方教室イベントの実施による利用啓発
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加

（２）実施主体
・上田バス株式会社 ・上田市 ・上田市公共交通活性化協議会 ・真田地域公共交通利用促進協議会
（３）定量的な効果目標
・上記取組を実施することにより、輸送量 15.00 以上の確保を目標とする。
（４）実施に向けたスケジュール
令和 7 年 10 月　　パターンダイヤ及びゾーン制運賃の導入 　　定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施 令和 7 年 12 月　　首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布 令和 7 年 12 月　　自社でのバス乗り方教室イベントの実施による利用啓発 令和 8 年 3 月～4 月　定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施 令和 8 年 4 月　　バスイベント「まちのバス大集合」開催 令和 8 年 7 月　　季節限定のデコレーションバスの実施 令和 8 年 7 月～8 月　キッズバスの実施 通年にて時刻表の無料配布、運賃低減バス施策、保育園児向けバスの乗り方教室、バスの運転体験ができる会社説明会（年 3 回）を実施する。
（５）実施時期
上記日程にて実施
（６）その他特記事項

８．広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表５に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】
（住　所）上田市蒼久保 1101-2
（所　属）上田バス株式会社
（氏　名）新井信輝
（電　話）0268-34-6602
（ＦＡＸ）0268-34-6601
（e-mail）n.arai@uedabus.co.jp

（様式１）

地域間幹線系統別確保維持計画

令和７年５月３０日

（住所）上田市蒼久保 1101-2
（名称）上田バス株式会社
（代表者名）舟見　哲也

１．幹線系統名、区間及び計画期間

系　統　名　：　　菅平高原　　線
運行区間　：　　上田駅　　～西菅平または大松
計画期間　：令和７年１０月１日～令和１０年９月３０日

２．幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いている菅平高原線（上田駅～裏太郎）は、菅平高原、真田地域、真田自治センター、上田駅、高等学校への通学・通勤の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に必要不可欠な交通として機能している。

人口減少と自家用車の普及により、菅平高原線の利用者は減少を続けていたが、平成 25 年 10 月からの運賃低減施策により、当該路線はバス利用者が着実に増えていることから、地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

このため、地域公共交通確保維持事業により、菅平高原線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトによる QR 決済実証実験では、定期券アプリが開発され、お客様（特に高校生）の需要が顕著に伸びている傾向にあり、利便性等も上がっております。

年一回行っている実態調査により、各路線における収益の按分比率を決定し、各路線の収益を算出しておりますが、この実証実験により各路線データーが集積されつつあり、実質的な収益も明確となった事は、今後の各路線のマーケティング構想の大きな足掛かりとなると捉えております。時間帯別、曜日別、利用者情報等、細分のデーターが得られることは路線の確保・維持に大きな力となります。一層のキャッシュレス化の推進を図る。

３．幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

（１）運行の目標

・他の幹線系統（菅平高原線、傍陽線）と組み合わせることで、平日の日中、上田駅から真田地域自治センター間において、30 分間隔のパターンダイヤ化を図り、サービス水準の向上による利用者の確保を目指す。
・上記の取組みにより輸送量 15.00 以上を確保する。

（２）運行による効果

・菅平高原線を維持することにより、住民の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

４．３の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【実施主体】
・上田バス株式会社、上田市、上田市公共交通活性化協議会、真田地域公共交通利用促進協議会
【事業】
・菅平高原内の循環化及び裏太郎エリアへの路線延伸による利便性の向上
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・夏休みキッズパスの実施
・「まちのバス大集合」（バスイベント）への参加
・地域住民向けにバスの乗車体験イベント実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修

５．費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R07.10～R08.9					
R08.10～R09.9					
R09.10～R10.9					

5.費用負担額について
　算定根拠となる、国からの地域別標準単価が示されておらず、負担額を算出できなかったため、空欄となっております。本申請の際には、確定数値を入力したものを提出することといたします。

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

６．収益改善のために行った取組状況

・「まちのバス大集合」や「バスの乗り方教室」、「夏休みキッズパス」を始めとする利用促進事業の実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修
・上田市のネーミングライツパートナーによるバスへのラッピング

７．生産性を向上する取組

（１）取組内容

・菅平高原内の循環化及び裏太郎エリアへの路線延伸による利便性の向上
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・夏休みキッズパスの実施
・季節限定のデコレーションバスの実施
・首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布
・定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施
・自社でのバス乗り方教室イベントの実施による利用啓発
・乗務員への安全講習・サービス向上の研修
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加

（２）実施主体
・上田バス株式会社 ・上田市 ・上田市公共交通活性化協議会 ・真田地域公共交通利用促進協議会
（３）定量的な効果目標
・上記取組を実施することにより、輸送量 15.00 以上の確保を目標とする。
（４）実施に向けたスケジュール
令和 7 年 10 月　　パターンダイヤ及びゾーン制運賃の導入 　　定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施 令和 7 年 12 月　　首都圏の学生に向けた路線バスチラシの配布 令和 7 年 12 月　　自社でのバス乗り方教室イベントの実施による利用啓発 令和 8 年 3 月～4 月　定期券・回数券を購入されたお客様へのプレゼントを実施 令和 8 年 4 月　　バスイベント「まちのバス大集合」開催 令和 8 年 7 月　　季節限定のデコレーションバスの実施 令和 8 年 7 月～8 月　キッズパスの実施 通年にて時刻表の無料配布、運賃低減バス施策、保育園児向けバスの乗り方教室、バスの運転体験ができる会社説明会（年 3 回）を実施する。
（５）実施時期
上記日程にて実施
（６）その他特記事項

８．広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表５に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住　所）上田市蒼久保 1101-2
（所　属）上田バス株式会社
（氏　名）新井　信輝
（電　話）0268-34-6602
（ＦＡＸ）0268-34-6601
（e-mail）n.arai@uedabus.co.jp

（様式３）

地域間幹線系統車両取得計画（公有民営用）

令和７年５月３０日

（住所）上田市蒼久保 1101-2
（名称）上田バス株式会社
（代表者名）舟見　哲也

１．新規車両の導入を予定する幹線系統名、区間及び導入予定年月

系　統　名　：　真田自治センター入口線
運 行 区 間　：　上田駅～真田自治センター入口
導入予定年月　：　令和７年１０月

２．車両の取得に係る目的・必要性

生活交通路線を運行している車両の老朽化に対応するため、新たに車両を代替し車両経費の軽減と事業収益の改善を図るとともに、生活路線の運行維持並びに利用者へのサービス向上を図る。ノンステップバスにより利用者の多様化を図る。

３．車両の取得に係る定量的な目標及び効果

（１）新規車両導入に係る目標

老朽化した車両との代替により、燃料費等の経費の削減を図る。
運行車両燃費：３．５キロメートル／L　→　４．５キロメートル／L

（２）新規車両導入に係る効果

新車を導入することで、燃料費等の経費を削減し、事業の収支改善が図られる他、地球温暖化対策に貢献できる。

４．入替予定車両の状況

メーカー：日野自動車
乗車定員：３７人
登録番号：長野２００　か　１６７２
登録年度（車令）：平成１９年３月
修繕費（前年度実績）：９５０，０００円

５．新規導入車両を活用した利用促進策

・新車導入により利用者の利便性・快適性の向上

【本計画に関する担当者・連絡先】
（住　所）長野県上田市蒼久保 1101-2
（所　属）上田バス株式会社
（氏　名）　新井信輝
（電　話）0268-34-6602
（ＦＡＸ）0268-34-6601
（e-mail）n.arai@uedabus.co.jp

（様式１）

地域間幹線系統別確保維持計画

令和７年５月３０日

（住所）長野県佐久市野沢２０番地
（名称）千曲バス株式会社
（代表者名）代表取締役社長　髙野　公秀　印

１．幹線系統名、区間及び計画期間

系 統 名　：　鹿教湯線
運行区間　：　鹿教湯車庫～下秋和
計画期間　：　令和７年１０月１日～令和１０年９月３０日

２．幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております鹿教湯線(鹿教湯～下秋和)は、鹿教湯病院・丸子中央病院・大屋駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、鹿教湯線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、平成 25 年 10 月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えおり、また令和 3 年 10 月からの上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトによるＱＲコード決済の実証実験により、利便性が向上している。

よって今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

しかしながら、運転者の長時間労働の是正のため、令和 6 年 4 月より、自動車運転者の労働時間等の改善のための基準(改善基準告示)が適用となり、運転者不足に拍車がかかる状態となっている。また、運転者の高齢化、運転者の健康問題等、様々な課題があり、安全・安心な運行に対する管理が以前にもまして重要視されている。このような課題をクリアしながら路線を維持・継続していくことが困難な状況にもなっている。

バス利用者のニーズに合わせながらも、上記のような問題を解決しなければならない為、事業者と行政及び協議会において今まで以上に密に地域公共交通確保維持事業を考え、鹿教湯線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

３．幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

（１）運行の目標

・平日の日中、1 時間間隔のパターンダイヤ化を図り、サービス水準の向上による利用者の確保を目指す。
・上記の取組みにより輸送量 15.00 以上を確保する。

（２）運行による効果

・鹿教湯線を維持することにより、上田市の高齢者及び学生等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、買い物など外出を促進させ地域の活性化にもつながる。

４．３の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【実施主体】
・千曲バス株式会社、上田市、上田市公共交通活性化協議会
【事業】
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・利用促進啓発活動の実施
・時刻表の配布（無料配布）
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・キッズパス施策
・上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加

５．費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R07.10～R08.9					
R08.10～R09.9					
R09.10～R10.9					

5.費用負担額について
　算定根拠となる、国からの地域別標準単価が示されておらず、負担額を算出できなかったため、空欄となっております。本申請の際には、確定数値を入力したものを提出することといたします。

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

６．収益改善のために行った取組状況

・「まちのバス大集合」や「バスの乗り方教室」、「夏休みキッズパス」を始めとする利用促進事業の実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・時刻表の配布（無料配布）
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・高校生の作品をバス車内へ展示するギャラリーバスの実施
・高校生からの意見や要望を聞き取ることを目的とした座談会の開催

７．生産性を向上する取組

（１）取組内容

・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・時刻表の配布（無料配布）
・利用促進啓発活動の実施
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・キッズパス施策
・上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト（ＱＲコード決済）
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加
・高校生の作品をバス車内へ展示するギャラリーバスの実施
・高校生からの意見や要望を聞き取ることを目的とした座談会の開催

（２）実施主体
・千曲バス株式会社 ・上田市 ・上田市公共交通活性化協議会
（３）定量的な効果目標
・上記取組を実施することにより、輸送量 15.00 以上の確保を目標とする。
（４）実施に向けたスケジュール
令和７年 11 月 12 月、令和７年２月　プレゼントキャンペーン 令和８年４月　　バスイベント「まちのバス大集合」開催 令和８年６月・９月　利用促進啓発活動 令和８年７月～8 月　キッズパス施策の実施 通年　時刻表の無料配布、運賃低減バス施策、ＱＲコード決済、保育園児向けバスの乗り方教室、バスの運転体験ができる会社説明会（年３回）を実施する。
（５）実施時期
上記日程にて実施
（６）その他特記事項

８．広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表５に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住　所）長野県小諸市加増 581-1
（所　属）千曲バス株式会社
（氏　名）望月　隆志
（電　話）0267-26-2600
（ＦＡＸ）0267-24-2610
（e-mail）eigyo@chikuma-bus.co.jp

（様式１）

地域間幹線系統別確保維持計画

令和７年５月３０日

（住所）長野県佐久市野沢２０番地
（名称）千曲バス株式会社
（代表者名）代表取締役社長　髙野　公秀　印

１．幹線系統名、区間及び計画期間

系 統 名　：　鹿教湯線
運行区間　：　丸子～下秋和
計画期間　：　令和７年１０月１日～令和１０年９月３０日

２．幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております鹿教湯線(丸子～下秋和)は、丸子中央病院・大屋駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、鹿教湯線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、平成 25 年 10 月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えており、また令和 3 年 10 月からの上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトによるＱＲコード決済の実証実験により、利便性が向上している。

よって今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

しかしながら、運転者の穣時間労働の是正のため、令和 6 年 4 月より、自動車運転者の労働時間等の改善のための基準(改善基準告示)が適用となり、運転者不足に拍車がかかる状態となっている。また、運転者の高齢化、運転者の健康問題等、様々な課題があり、安全・安心な運行に対する管理が以前にもまして重要視されている。このような課題をクリアしながら路線を維持・継続していくことが困難な状況にもなっている。

バス利用者のニーズに合わせながらも、上記のような問題を解決しなければならない為、事業者と行政および協議会において今まで以上に密に地域公共交通確保維持事業を考え、鹿教湯線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

３．幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

（１）運行の目標

・平日の日中、1 時間間隔のパターンダイヤ化を図り、サービス水準の向上による利用者の確保を目指す。
・上記の取組みにより輸送量 15.00 以上を確保する。

（２）運行による効果

・鹿教湯線を維持することにより、上田市の高齢者及び学生等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、買い物など外出を促進させ地域の活性化にもつながる。

４．３の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【実施主体】
・千曲バス株式会社、上田市、上田市公共交通活性化協議会
【事業】
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・利用促進啓発活動の実施
・時刻表の配布（無料配布）
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・キッズパス施策
・上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加

５．費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R07.10～R08.9					
R08.10～R09.9					
R09.10～R10.9					

5.費用負担額について
　算定根拠となる、国からの地域別標準単価が示されておらず、負担額を算出できなかったため、空欄となっております。本申請の際には、確定数値を入力したものを提出することといたします。

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

６．収益改善のために行った取組状況

・「まちのバス大集合」や「バスの乗り方教室」、「夏休みキッズパス」を始めとする利用促進事業の実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・時刻表の配布（無料配布）
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・高校生の作品をバス車内へ展示するギャラリーバスの実施
・高校生からの意見や要望を聞き取ることを目的とした座談会の開催

７．生産性を向上する取組

（１）取組内容

・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・時刻表の配布（無料配布）
・利用促進啓発活動の実施
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・キッズパス施策
・上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト（ＱＲコード決済）
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加
・高校生の作品をバス車内へ展示するギャラリーバスの実施
・高校生からの意見や要望を聞き取ることを目的とした座談会の開催

（２）実施主体
・千曲バス株式会社 ・上田市 ・上田市公共交通活性化協議会
（３）定量的な効果目標
・上記取組を実施することにより、輸送量 15.00 以上の確保を目標とする。
（４）実施に向けたスケジュール
令和７年 11 月 12 月、令和７年２月　プレゼントキャンペーン 令和８年４月　　バスイベント「まちのバス大集合」開催 令和８年６月・９月　利用促進啓発活動 令和８年７月～8 月　キッズパス施策の実施 通年　時刻表の無料配布、運賃低減バス施策、ＱＲコード決済、保育園児向けバスの乗り方教室、バスの運転体験ができる会社説明会（年３回）を実施する。
（５）実施時期
上記日程にて実施
（６）その他特記事項

８．広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表５に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住　所）長野県小諸市加増 581-1
（所　属）千曲バス株式会社
（氏　名）望月　隆志
（電　話）0267-26-2600
（ＦＡＸ）0267-24-2610
（e-mail）eigyo@chikuma-bus.co.jp

（様式１）

地域間幹線系統別確保維持計画

令和７年５月３０日

（住所）長野県佐久市野沢２０番地
（名称）千曲バス株式会社
（代表者名）代表取締役社長　髙野　公秀　印

１．幹線系統名、区間及び計画期間

系 統 名　：　青木線
運行区間　：　下秋和～青木
計画期間　：　令和７年１０月１日～令和１０年９月３０日

２．幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております青木線(下秋和～青木)は、上田駅・高等学校・市内の病院等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、青木線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、平成 25 年 10 月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えており、また令和 3 年 10 月からの上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトによるＱＲコード決済の実証実験により、利便性が向上している。

よって今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

しかしながら、運転者の長時間労働の是正のため、令和 6 年 4 月より、自動車運転者の労働時間等の改善のための基準(改善基準告示)が適用となり、運転者不足に拍車がかかる状態となっている。また、運転者の高齢化、運転者の健康問題等、様々な課題があり、安全・安心な運行に対する管理が以前にもまして重要視されている。このような課題をクリアしながら路線を維持・継続していくことが困難な状況にもなっている。

バス利用者のニーズに合わせながらも、上記のような問題を解決しなければならない為、事業者と行政及び協議会において今まで以上に密に地域交通確保維持事業を考え、青木線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

３．幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

（１）運行の目標

・平日の日中、1 時間間隔のパターンダイヤ化を図り、サービス水準の向上による利用者の確保を目指す。
・上記の取組みにより輸送量 15.00 以上を確保する。

（２）運行による効果

・青木線を維持することにより、上田市の高齢者及び学生等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、買い物など外出を促進させ地域の活性化にもつながる。

４．３の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【実施主体】
・千曲バス株式会社、上田市、上田市公共交通活性化協議会
【事業】
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上
・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保
・利用促進啓発活動の実施
・時刻表の配布（無料配布）
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・キッズパス施策
・上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加
・貨客混載の取組み

５．費用負担額

補助対象期間	欠損見込額※	負担額			
		国	県	市町村	事業者
R07.10～R08.9					
R08.10～R09.9					
R09.10～R10.9					

5.費用負担額について
　算定根拠となる、国からの地域別標準単価が示されておらず、負担額を算出できなかったため、空欄となっております。本申請の際には、確定数値を入力したものを提出することといたします。

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

６．収益改善のために行った取組状況

・「まちのバス大集合」や「バスの乗り方教室」、「夏休みキッズパス」を始めとする利用促進事業の実施
・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催
・時刻表の配布（無料配布）
・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン
・貨客混載の取組み
・高校生の作品をバス車内へ展示するギャラリーバスの実施
・高校生からの意見や要望を聞き取ることを目的とした座談会の開催

７．生産性を向上する取組
（１）取組内容
・パターンダイヤ化によるサービス水準の向上 ・ゾーン制運賃の導入による適正な運賃設定による収益性の確保 ・時刻表の配布（無料配布） ・利用促進啓発活動の実施 ・回数券・定期券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン ・キッズパス施策 ・上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト（ＱＲコード決済） ・「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催や就職説明会への参加 ・貨客混載（下秋和車庫～青木ターミナル間 16.4 ㎞、1 日 1 回、1 荷物 100 円） ・高校生の作品をバス車内へ展示するギャラリーバスの実施 ・高校生からの意見や要望を聞き取ることを目的とした座談会の開催
（２）実施主体
・千曲バス株式会社 ・上田市 ・上田市公共交通活性化協議会 ・ヤマト運輸株式会社（貨客混載）
（３）定量的な効果目標
・上記取組を実施することにより、輸送量 15.00 以上の確保を目標とする。
（４）実施に向けたスケジュール
令和 7 年 11 月 12 月、令和 7 年 2 月　プレゼントキャンペーン 令和 8 年 4 月　　バスイベント「まちのバス大集合」開催 令和 8 年 6 月・9 月　利用促進啓発活動 令和 8 年 7 月～8 月　キッズパス施策の実施 通年　時刻表の無料配布、運賃低減バス施策、ＱＲコード決済、保育園児向けバスの乗り方教室、バスの運転体験ができる会社説明会（年 3 回）を実施する。
（５）実施時期
上記日程にて実施
（６）その他特記事項

８．広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表５に定める広域行政圏の中心市町村以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住　所）長野県小諸市加増 581-1
（所　属）千曲バス株式会社
（氏　名）望月　隆志
（電　話）0267-26-2600
（ＦＡＸ）0267-24-2610
（e-mail）eigyo@chikuma-bus.co.jp

（様式３）

地域間幹線系統車両取得計画（公有民営用）

令和７年５月３０日

（住所）　長野県佐久市野沢２０番地
（名称）　千曲バス株式会社
（代表者名）　代表取締役社長　髙野　公秀

１．新規車両の導入を予定する幹線系統名、区間及び導入予定年月

系　統　名　：　鹿教湯線
運 行 区 間　：　下秋和～丸子
導入予定年月　：　令和８年11月

２．車両の取得に係る目的・必要性

鹿教湯線での利用が、通院・通学・通勤をされるお客様がいるなかで、高齢者及び体の不自由な方の利用が多くなってきている。また、車両の老朽化も進んでいるため、高齢者や体の不自由な方にも利用しやすい低床型（ノンステップ・スロープ付き）の車両を購入して、利用者のサービスを向上するとともに事業収益の改善を図りたい。

３．車両の取得に係る定量的な目標及び効果

（１）新規車両導入に係る目標

鹿教湯線の輸送量15.00以上を維持する。
運行車両燃費を1ℓ あたり4㎞以上とする。

（２）新規車両導入に係る効果

高齢者や障がい者にとって乗りやすい車両になり、利便性・安全性が向上する。

４．入替予定車両の状況

メーカー：三菱
乗車定員：７６人
登録番号：長野２００　か　１３７６
登録年度（車令）：平成１２年６月
修繕費（前年度実績）：１７０万円

５．新規導入車両を活用した利用促進策

新車導入により利用者の利便性・快適性の向上

【本計画に関する担当者・連絡先】
（住　所）長野県小諸市加増581-1
（所　属）千曲バス株式会社
（氏　名）望月　隆志
（電　話）0267-26-2600
（ＦＡＸ）0267-24-2610
（e-mail）eigyo@chikuma-bus.co.jp